

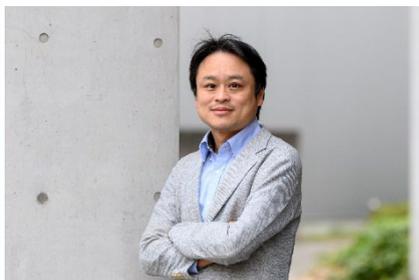
G空間情報センター

ニュースレター 第34号 2022年11月発行

【目次】

- [1. TOPICS「G空間情報センター 最新の取組みご紹介」](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2022.9.1-10.31\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. イベント情報で未来を予測する](#)
- [5. 困った時のG空間情報センター活用早見表 \(PDF\)](#)

1. TOPICS「G空間情報センター 最新の取組みご紹介」



(一社) 社会基盤情報流通推進協議会 代表理事
(東京大学空間情報科学研究センター 教授)
関本 義秀

1. G空間情報センター 運営開始6周年

2016年11月に運営を開始したG空間情報センター(以下、当センター)は、おかげさまで6周年を迎えました。皆様のご支援のもと、登録データファイルは6万件、登録組織数は590件を超えています。また、産官学を問わず組織の壁を越えた多様なデータの統合・融合と価値創出実現の場として、当センターのデータを軸とした様々なプロジェクトが多数展開されています。



図1 G空間情報センタートップページ (<https://front.geospatial.jp/>)
(2022年11月9日時点)

2. G空間情報の流通・利用促進のための活動

当センターの運営を担う（一社）社会基盤情報流通推進協議会（AIGID）は、G空間情報センターを核としてG空間情報の流通・利用促進のための活動を広げてきました。

G空間情報を用いた課題解決を目指した取組みの一例として、地方公共団体のオンライン電子納品を支援する「[My City Construction](#)」、市民協働投稿サービス及び道路損傷検出サービスを備える「[My City Report](#)」があります。いずれも利用者数は順調に増えており、My City Constructionは静岡県を始めとする14自治体が参加、My City Reportは千葉市を始めとする32自治体で導入いただいています（2022年11月現在）。

また、三次元デジタルツイン環境の構築を目指す「[デジタルシティサービス](#)」は、2022年11月現在、試験利用を含め全国11都市と運用自治体数が増加しています。G空間情報センターのデータハブとしての取り組みとして、国土交通省が運営する[国土交通データプラットフォーム](#)との連携や、都市局の「[Project PLATEAU](#)」で整備された各種データやプログラムの公開も実施しています。

更には、災害情報分野では、[リアルタイム災害情報](#)として大雨や地震等災害発生時の緊急撮影データの提供を行っています。今年度はNHKが主催する[発災時のリアルタイムデータ利活用検討会](#)にも参画するなど、災害発生時の情報利活用の在り方について関係各所との議論を続けています。

今後も、産官学の垣根を越えて多くの皆様と協働しながら、多様なデータの統合・融合を目指した活動を多方面で展開して参ります。引き続きG空間情報センターをよろしく願いいたします。

3. 【12/9開催】G空間情報センターシンポジウムのご案内

当センター主催のシンポジウムを開催します。当センターが関わる取組みの最新動向をお伝えするとともに、G空間情報の利活用が進む災害対応分野においてご活躍の方々をお招きしご講演いただきます。是非ご視聴をご予定ください。

- ・日時：2022年12月9日（金）13：00～15：00
- ・形式：YouTube Live
- ・備考：参加無料

シンポジウムの詳細・配布資料申込みは[こちら](#)

※視聴 URL は 11 月下旬に上記ページに掲載予定

4. 【12/6,7 開催】G 空間 EXPO2022 出展のご案内

G 空間 EXPO2022 に出展します！

今年も会場開催がございます。当センターや AIGID の最新の取り組みを直接聞くことができる年に一度の機会です。皆様のご来場をお待ちしています。

- ・日時：2022年12月6日(火)・7日(水) 10：00～17：00
- ・会場：東京都立産業貿易センター浜松町館 4 F（東京ポートシティ竹芝オフィスタワー）
- ・備考：入場無料

G 空間 EXPO2022 の詳細は[こちら](#)

2.上位アクセス状況(集計期間：2022.9.1-10.31)

登録ユーザー数	13,157 名
期間アクセス数	378,804
登録組織数	593 件
データセット数	7,880 件
ファイル数	61,681 件

人気のデータセット

1	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
2	3D 都市モデル (Project PLATEAU) ポータルサイト
3	全国の人流オープンデータ (1km メッシュ、市町村単位発地別)
4	静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
5	静岡県 中・西部 点群データ
6	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 大阪市 (2020 年度)
7	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区 (FBX 2020 年度)
8	静岡県 富士山および静岡東部 点群データ
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 札幌市 (2020 年度)
10	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 横浜市 (2020 年度)

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[こちら](#)

最新のデータ公開情報は[こちら](#)

最新のイベントをいち早くキャッチしたい場合は、ぜひ Peatix でフォローをお願いします☆

G空間情報センターイベント最新情報は[こちら](#)からフォロー(Peatix)

4. イベント情報で未来を予測する



株式会社イベントバンク
代表取締役 福井 慶一郎

マーケティングやリサーチのシーンにおいて、「いつ・どこに・どれだけの人が集まるのか」を予測することに関心をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。

株式会社イベントバンク（以下、「弊社」）は、2008年より、全国各地で開催されるお祭り・イベント情報を独自に収集しデータベース化しています。イベント情報は“人の集まり”の予定情報であり、位置情報（人流情報）、気象情報、SNSの投稿情報などと並ぶ、行動予測の精度向上に資するデータのひとつといえます。

1. コロナ禍におけるイベント開催状況

お祭り・イベントは、2020年から始まるコロナ禍で大きな影響を受けました。この表は、2019年（コロナ以前）を基準に、月ごとのイベント数を比率（2019年比）で表したものです。

開催月別イベント数 2019年比

開催月	2020年	2021年	2022年
1月	107%	66%	83%
2月	100%	64%	67%
3月	44%	75%	70%
4月	24%	72%	88%
5月	10%	49%	78%
6月	23%	55%	78%
7月	33%	60%	87%
8月	34%	46%	73%
9月	42%	46%	80%
10月	55%	65%	82%
11月	65%	70%	-
12月	63%	76%	-

※2022/10/14時点

データ出典：イベントバンク データベース

2020年3月から急速に落ち込み、その後は、緊急事態宣言の発出・解除、「Go Toトラベル」ほか各種需要喚起キャンペーンの開始・停止などに連動する形で増減を繰り返しています。これは一例ですが、イベントの開催状況から、社会の動きや気分、トレンドといったさまざまな事象を読み取れる可能性があります。

イベントの開催場所を地図にプロットして可視化し、他のデータと掛け合わせることでさらに立体的な情報となります。下記の図1は、ある年の夏に東京都内で行われたイベントをプロットし、集客規模を円の大きさに表現したものです。



図1：イベントの集客規模可視化の例

2. イベント情報の集約・配信プラットフォーム「EventBank プレス」

「今日どこかで面白いイベントをやっていないか？」…誰でも一度は考えたことがあるでしょう。場所やジャンルを特定すれば、ネットで探すことは比較的容易ですが、これらを特定せず広く横断的に探索し、自分にフィットする情報を得るのは簡単ではありません。

イベントは下記のような点から集約することが難しい情報です。

- ・ 動的情報であり継続的な情報収集活動が必要
- ・ 主催者が多様なため情報収集が煩雑
- ・ 網羅性を上げるには多大な労力が必要
- ・ 情報が変更になる場合がある

これらの課題を解決するために、弊社の独自プラットフォーム「EventBank プレス」では、約 2 万団体の主催者がイベント情報を直接登録する形でデータベース化。イベントの規模を問わず、全国各地の情報を蓄積・更新しています。データベース化された情報は、弊社が提携するメディアに配信・掲載。イベント主催者は、これらメディアを通して情報を広く告知することができます（無料）。この仕組みにより、年間数万件のイベント情報をデータベース化し、主催者とメディア、イベント参加者をつなぐプラットフォームとして、効率的な情報の流通を実現しています。

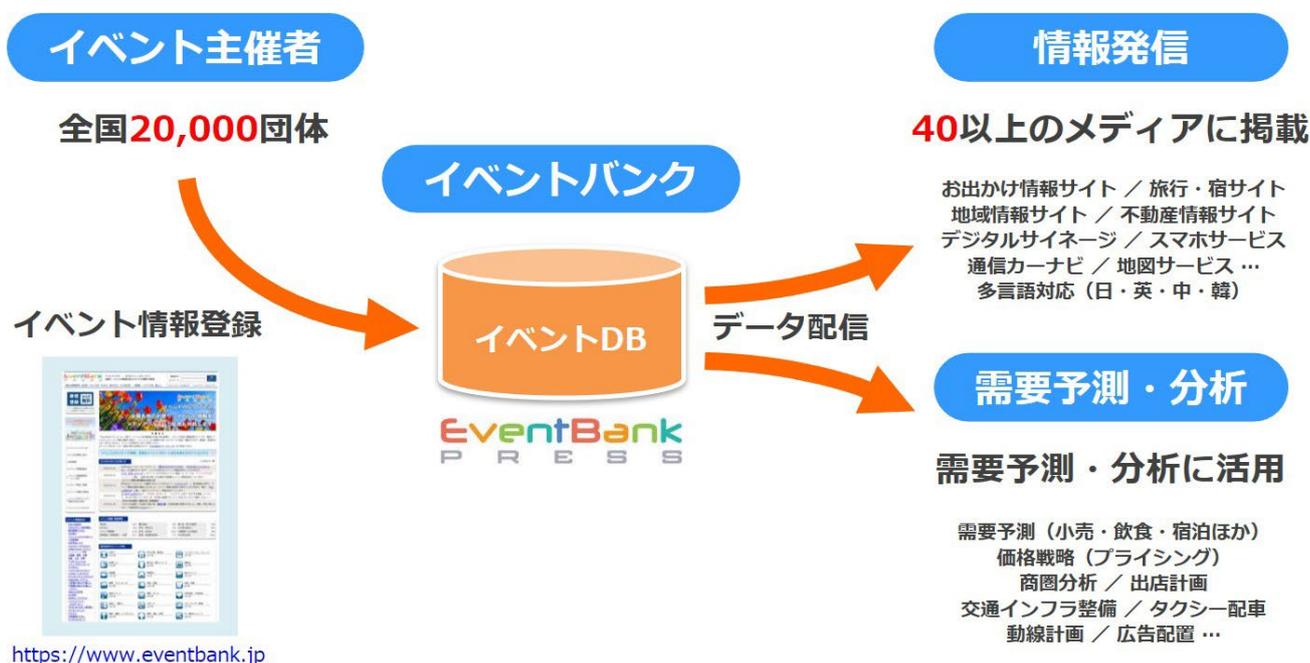


図 2: 「EventBank プレス」のサービスイメージ

イベント情報の項目には、開催日時、会場位置（緯度経度）、想定動員数があり、「いつ・どこに・どれだけの人が集まるのか」が高い確度で予測できます。イベント情報は、地域の魅力を発信することはもちろん、未来予測のためのデータとして、下記のようなさまざまなビジネスや課題解決のために活用できます。

- ・資源やリソースの最適化（エネルギー、公共交通…）
- ・機会ロスや廃棄ロスの低減（仕入れ、在庫、人員配置…）
- ・混雑回避（迂回ルート・代替交通…）
- ・そのほか、需要予測、各種研究・分析…

イベント情報は、さまざまな G 空間情報と掛け合わせるにより、新たな発見や課題の解決につながります。データの活用、コラボレーションほか、他業種・他分野を含む多くの皆さま方との接点から、これまでにない価値を創造できればと考えています。

■ イベントバンクの掲載データセットは [こちら](#)

<お問い合わせ先>

株式会社イベントバンク 担当：三村

E-mail : mimura@eventbank.jp

5. 困った時の G 空間情報センター活用早見表 (PDF)

「こんな時どうすればいいの？」 or 「こんな時どうすればいいのだろうか？」

G空間情報センターの使い方をついつい忘れてしまい、ログインできない・ダウンロードできない、その結果、G空間情報センターから遠のいてしまう・・・。

そんな時の為に、G空間情報センターに届く問い合わせをもとに、簡単な早見表を作ってみました☆

A4サイズでプリントアウトすると、文字が小さい・ちょっと線が細かい・・・などありますので、PDFを拡大表示して使うことをお勧めします。

「こんなことも書いてほしい！」「教えてほしい！」という方は、[お問い合わせ](#)「その他」から、ご連絡ください。

[G 空間情報センター活用早見表 \(PDF ダウンロード\)](#)

過去のニューズレターアーカイブは [こちら](#)

G 空間情報センターの使い方動画を公開中！ [You Tube](#)

[ご意見・ご要望について](#)

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール : info@geospatial.jp

TEL : 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。